

校長室の窓から

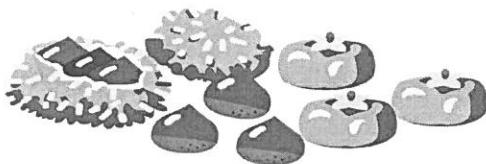
「紅葉祭」で、一体感を感じていただけたでしょうか。

10月27日に、「紅葉祭」を開催しました。朝からあいにくの雨でしたが、500人分を用意した席は満員となり、多くの方に参観していただきました。ありがとうございました。

「紅葉祭」の中核は「合唱コンクール」です。各学級では、朝・昼・放課後に練習の機会を持ち、よりよい歌声を響かせようと努めました。しかし、すんなりと練習に取り組めていたのではなく、さまざまな葛藤を乗り越えてステージでの発表につなげています。伴奏者は1学期のオーディションから準備を整え、選出されたあとも練習を重ねて伴奏曲を仕上げました。指揮者は、学級での練習のたびに、心を澄ませて歌声を聴き、改善すべきこと、うまくなかったことを指摘する姿も見ました。練習に気持ちよく取り組めない生徒がいたり、指揮者の思いがすんなりとは受け入れられなかつたりすることもありました。合唱前のスピーチでは、そんな姿を「心が通い合わない」「壁にぶつかった」「いいあいになった」と表現していました。学級担任も、生徒に寄り添い、もがき、生徒とともに合唱を作り上げました。

本番の発表前には、各学年10分間の体育館での練習があります。体育館でその様子をご覧になった方も多いことだと思います。最後の練習の後、肩を組んで、かけ声を合わせる生徒の姿に気づかれたでしょうか。あの場面に至るまでに乗り越えたことは決して少なくありません。思いを合わせて全員で丸くなる姿をとても嬉しく思うと同時に誇らしく思いました。

ステージ上では、指揮者も伴奏者も歌い手も緊張していたことと思います。フロアーでそれを見つめる担任の思いもはらはらときどきであり、穏やかではなかったはずです。なかなか良い練習ができなかった学級も、全生徒がステージに立ち思いを一つにして歌う姿がありました。審査をしている立場でありながら、思わず涙が出てくる場面でした。この取り組みのねらいである学級の一体感を一人一人が感じていたことと思いました。



演奏は、どの学年も昨年度よりよい仕上がりになっていました。入賞の有無はありましたが、さまざまなできごとを乗り越えて今日に至っています。各学級の物語の1ページとして、合唱への取り組みの経験が生かされるものと思います。合唱コンクールの表彰は次の通りです。

(1年) 金賞1の5、銀賞1の2、銅賞1の4
指揮者賞 草野心美さん
伴奏者賞 鈴木莉音さん

(2年) 金賞2の6、銀賞2の3、銅賞2の5
指揮者賞 富井咲良さん
伴奏者賞 栗原美海さん

(3年) 金賞3の1、銀賞3の6、銅賞3の4
指揮者賞 海津洸太さん
伴奏者賞 丸山稔典さん、目黒恭涼さん

「紅葉祭」ポスターコンクールの結果は、
(1年) 金賞1の2、銀賞1の3、銅賞1の4
(2年) 金賞2の1、銀賞2の5、銅賞2の4
(3年) 金賞3の6、銀賞3の2、銅賞3の3
「学級新聞コンクール」の結果は、
(1年) 金賞1の2、銀賞1の5、銅賞1の3
(2年) 金賞2の3、銀賞2の2、銅賞2の4
(3年) 金賞3の6、銀賞3の2、銅賞3の1
2つのコンクールとともに、各学級の掲示ならびに新聞委員と協力してすてきな作品を仕上げました。来校の際にはぜひご覧ください。

このような紅葉祭での一体感を生み出した成果を、今後の学級づくりや受験に生かすよう指導していきます。11月末の校内球技大会を、学級の力を高める機会にします。

技能教科の評定をお知らせします。

今年度より技能教科の定期テストは年2回にしました。理由は技能教科の一週間当たりの時数が少ないためです。評定も前・後期の2回にしました。本日は、技能教科の前期分の評定をお知らせするために通知票を配付しましたが、今回の国社数理英の評定は1学期のままであります。所見は学期末に記載します。技能教科の評定だけの内容であることへのご理解よろしくお願いします。